

令和5年度裾野市地域公共交通活性化協議会(第2回)議事録

日時:令和5年10月6日(金)14:30~16:00

場所:裾野市役所4階401会議室

・出席者 別添資料 No.2のとおり

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 委員及び出席者紹介

年度中での委員交代については、資料 No.1のとおり

4. 議事

【報告事項】

- (1) 裾野市内循環線の利用状況について(資料 No.4)

資料 No.4 のとおり、令和5年度8月末までの裾野市内循環線の利用状況について説明。

《質疑等》

特に無し

- (2) 岩波循環線の利用状況について(資料 No.5)

資料 No.5 のとおり、令和5年度8月末までの岩波循環線の利用状況について説明。

《質疑等》

中川委員:岩波循環線の乗車率が減っている。収支率はどれくらいか?

事務局:収支率は10%を切っている。

中川委員:以前に藤井先生も20%を切ってしまうと廃止と言っていた。

市に対する提言としては、岩波線は継続が難しい路線だと感じる。

藤井委員:収支率の問題はいろいろな課題が地域ごとにある。関わっている地域では、収支率20%を目標としているところが多い。数字の見方にもなるが、公共性、公平性についてが課題感。特定の人のみが利用している状況をどう考えるか、が大事。

平均利用者数を5人で考える自治体が多い。平均が2.0人に近づいていると、廃止の検討。

18:23の便は、本当に必要か?通勤、通学での必要性⇒スクールバスで補完。

部活動を学校教育と考えると、公共交通での対応をしていく自治体もある。

何かしらの課題をもって考えていかないと、公共性を担保する要因になっていかない。

坪井委員：湖西市の方では、企業のバスに同乗している。
トヨタのバスなどに同乗できないか、検討しているか？

事務局：企業バスについては、意見の中で出てきているが、具体的な案としてはまだ出ていない。

中川委員：岩波線の継続については、継続なのか一部廃止なのか、検討してほしい。
便数の減便なども。

(3) 高齢者バス・タクシー利用助成券の利用状況について(資料 No.6)

資料 No.6 のとおり、令和5年度 8 月末までのバス・タクシー利用助成券の利用状況について説明。

《質疑等》

杉山委員：環境市民部長より、関連の報告。高齢者の運転者の免許返納者に対するのバス・タクシー助成券利用状況。

免許返納80人、タクシー券交付55人、交付率 68.70% 利用率 742枚 46.1%

バス・タクシー券は、1人 3,000 円 翌年度末まで使用可能。

八木委員：R4 年度の 11 月に交付人数が増えている理由は。

→広報か何かで情報を再掲示した時期だった。

土屋委員：婦人会の構成員の中高年が多い。

その中の意見で、1度に使える金額が少なすぎるとの声があった。

3～5,000円のタクシー代に対して、100円の補助は少なすぎる。

バスでも須山から裾野駅に行くだけでも600円はかかる。

一度に使える上限額の変更はあるか。

事務局：いろいろな要望は受けている。

200円が少ないという意見はある。

小刻みにして、公共交通を利用してもらう機会を増やす狙いがある。

対話集会でも交付額や利用額について意見があった。今後見直しの際に検討していく。

(4) 裾野市内循環線の利用者調査等について(資料 No.7)

(モビリティ勉強会での取り組み)

モビリティ勉強会 北濱氏：モビリティ勉強会では、データを活用して公共交通の課題を検討するミーティングを週1回行っている。市の公共交通担当、三ツ輪交通、矢崎総業、豊田中央研究所、トヨタ自動車が進めている。

今回、市内循環線バスの調査を実施。今までの公共交通に関する調査は、幅広く意見を聞いていて、実際にバスを利用しない人の意見も入っていた。今回は、今バスを利用している人の声を聴くという点にこだわり、1カ月間バスに実際に乗り込んで乗客に調査票を配布した。

調査票の配布数は 253 枚。つまり、バスを利用している人は約250人で、延べ人数の表を見ると、1 カ月約 1,000 人の利用なので、1人あたり平均月 4 回の利用と読みとれる。市内循環線バスは、250 人の人が週平均 1回乗っているバスということがわかった。

調査票の裏面に設けた自由コメント欄では、「遠回りせず駅まで直接行って。」「朝と夕方の便を増やしてほしい」「バスの中での会話が楽しい」などの声が多かった。

調査票を配って、150人くらいの方から回答があり、連絡先を記入していただいた方を対象に実際に対話集会を行った。30名くらいの方が参加した。対話集会での主な意見は、「毎日運行より、朝夕便優先で」「行き帰りで使える便を」「用事に時間がかかるから、2時間くらい時間がほしい」「バス友ができて楽しい」など。

《質疑等》

原田委員：市内循環線は、令和4年 4 月から新しく走っていると思う。
すその一と比べて利用者の声、事務局の評価はどのようなものか。

事務局：すその一が廃止になって、今の循環線の形態となった。便数や路線が違うことから一概には比較できないが、利用者数では、2 万人が1 万人に減っている。

利用者の声では、遠回りや料金体系がわかりにくいなどの意見。循環線のため、10分で行けるところが30分かかる。課題は承知している。最適化を市でも考えていく。

利用者の声を聴いたので、変更を考えていく。

土屋委員：自分が今自家用車で移動していて、バスを利用していない。

母がバスを利用していて、運転手さんと仲良くなった。乗る人との世間話も楽しいと言っていた。

バスの移動時間が対話の時間にもなっていた。

事務局：前回の協議会で八木委員からも意見があった、バスの中に表示してみてもというのを参考に調査結果などをバス内に掲示した。

八木委員：あがってきた内容を、極力早めに何か、目に見えるかたちにしてほしい。

何かひとつでもいいので。

土屋委員：タクシー事業者の方に伺いたい。乗り合いタクシーは、市内では実施しているのか？

中川委員：5～6年前に葛山で実証実験した。

実利用には至らなかった。今はやっていない。実際の利用者が少なかった。

市から区への移管がうまくできなかった。

藤井委員：利用実態調査で、1 カ月まるごと乗車したというのは見たことない。

実利用者の声をフィードバックできたのはいい。次の改善にどう向き合っていくかが、まだ難しい。

利用回数によって、利用者の要望はかわってくる。

利用回数が多い人に向けて改善するのか、利用しやすくして利用者を増やすのか。

公共交通について、行政任せが多い中で、バス応援隊のように地域の問題に関わってくれるのは大事。

丁寧に対応してほしい。

さきほど出た、葛山の話について、まずは、デマンドタクシーは万能でないとお伝えしたい。会議には車で全員来て車で帰る地域でタクシーの導入は難しい。近所の方とのコミュニティが良いため、タクシーに乗るのではなく、近所の方にのせてもらう人が多かった。デマンド交通の導入・活用について、難しい環境だった。

別の自治体では、買い物目的のみなど、限定的なデマンドタクシーを活用している地区もある。

全体的なデマンドタクシーは裾野市には向いてない。

北濱氏：今回の調査で勉強にもなった。

利用者の声を直接聞いて、何が困っているかわかった。

これから市内循環線を変えていくために良い取り組みができた。まずは、早く何か変えることが大事と思っている。

藤井委員：早く変えることも大事だが、地域の公共交通の最後の柱としての補助制度を活用している事業だから、ルールがあるはず。変えてはいけないということは無いと思うが、慎重に。

事務局はしっかりと勉強して考えていくように。

(5)バス運行事業者による路線バス事業の現状等について(資料 No.8)

富士急シティバス 渡辺委員：

10 月からバスの運賃改定をした。28年ぶりの料金改定。

これまでのようにどうやって稼ぐかより、どう運転手を確保するかが現在の問題。

2024年問題で、運転手不足が課題。100人くらい運転手がいるが、50歳以上が7割で、

運転技術がある人は、観光バスや都営バスなどのほうにいつてしまう。

今でも働いてくれている人は、バスが好きで働く人が多い。コロナ前は、運転手が130人くらいいて、観光バスや高速バスを多く走らせて、路線バスの赤字を埋めていた。現在は、運転手も足りなくて、観光バスや高速バスを動かさない。待遇をよくするように給料改善や、バス運転手説明会などを実施しているが、運転手が足りない。路線バスを維持していくために、路線内の本数を減らすなどして維持していきたい。

《質疑等》

藤井委員：千葉でも全く同じ。自治体がどう協力できるか、この公共交通活性化協議会の中で、きちんと決める

ことが大事。他自治体の公共交通活性化協議会で一事業者を応援していいのか意見が出たが、市民の移動手段となる公共交通を残すためには支援も必要。

行政が一緒になって、再任用の募集、女性ドライバーの任用、自衛隊 OB からの紹介などを行う。

民間事業が行くだけではなく、行政も一緒になって取り組んでいる。事務局の中でどういう枠組で協力ができるか考えてほしい。

5. その他

市長戦略課から情報提供

市長戦略課 勝間田：自動運転の実証実験について。

三島市、裾野市、長泉町、清水町の 2 市 2 町の協議会で、国の補助事業を活用して実証実験を行う。

運転手不足、運転手の高齢化対策に自動運転が継続活用できるか検証。

環境市民部長：移動スーパー事業について。

マックスバリューと市の区長会で連携して行う事業。実施の地域は市内 40 区 60 か所。

頻度は週に 1 回。10 月 10 日(火)からスタート。

藤井委員：自動運転について。12 月 1 日に出発式を行う。12 月 3, 4 日に一般の人も乗ってもらえるように考えている。8 人までの乗車で、こどもたちにも乗ってもらいたい。

大学が関係しているので、乗車した人へのアンケート、沿線の全体アンケートを行う。

今回は、下土狩駅と三島駅間だけだが、三島南口から大社などのルートもできたらいい。

三島駅から下土狩駅に行き、そこから御殿場線で岩波駅などのシームレス化で移動のしやすさを改善する取り組みに発展してほしい。

事務局：今後の協議会開催予定。

路線バスの協議が必要になると思われるため、12 月から 1 月までに開催。